

# 看護師との連携で家族の負担 が軽減したケース

高須病院 訪問リハビリ  
理学療法士  
鳥居和隆

S 様 80代 男性  
介護度：要介護2

【主傷病名】第8、11胸椎、第1腰椎圧迫骨折

【既往歴】

38歳 全身性の炎症疾患にて全盲となる。

70歳 胆石手術

82歳 アルツハイマー型認知症

83歳 総胆管結石

上行結腸癌 手術

# 家族構成・住環境

- 同敷地の母屋に息子、嫁、孫が在住。
- 離れで妻と生活。(居間:1階 寝室・トイレ:2階)
- 主介護者:妻
  - 献身的に介護をしている。
  - 息子家族(特に嫁)に気を使っている。
  - 認知機能の低下に対して理解不足。
  - 不安が強い。
- 息子:通院介助などを行い協力的。

# 受傷前の生活

- 食事：茶碗の上におかずを置いてもらって行う。
- 移動：主に妻の介助で行う。  
敷地内は白杖を使用して一人でも可能。
- 入浴：妻と一緒に行っていった。  
床上マットで洗体を行っていた。
- 更衣、整容：セッティング必要。一部介助。
- 屋外歩行：白杖を使用し、妻と毎朝自宅周辺を散歩していた。

# 現病歴

- 平成27年4月下旬：転倒。
- 5/1 コルセット完成。
  - ➡ 本人がすぐに外してしまいうため、外せないように工夫していた。
- 平成27年5月25日：自宅にて再転倒。  
翌日疼痛増悪し動けなくなり救急搬送。  
妻の強い希望もあり安静目的で入院。
- 6月5日 自宅退院。

# 退院時リハビリサマリー(H27.6.5)

- 全盲のため、全てのADLは介助。
- 歩行器歩行:30M歩行可能。
- 手引き歩行:15M程歩行可能。
- 歩行障害の原因は腰背部の疼痛のみと考えられる。
- 廃用予防のために筋力増強訓練、歩行訓練を実施した。

# 利用者・家族の意向

(H27.6.5 ケアプランより抜粋)

本人：・ 共倒れになってしまわないか心配。

妻：・ これからはベッドやポータブルトイレが必要だと思う。

- ・ コルセットを付けていられず、すぐに外してしまう事が困る。本人の体調等で色々と相談に乗ってほしい。

長男：・ 体力が明らかに落ちている。寝たきりにならない様に動いた方が良くと思う。

# 介入時の生活状況

- 食事：ご飯の上に妻がおかずを乗せて箸にて自己摂取。
- 排泄：主にポータブルトイレ使用。  
自宅2階にある自宅トイレも時に使用。
- 入浴：訪問看護師による清拭。
- 更衣：コルセット着用している事もあり全介助。  
能力的には自立。
- 室内移動：いざりか伝い歩き。
- 母屋への移動：妻の手引き。

# リハビリ評価

- 筋力:比較的保たれている。
- 痛み:その時々状況により訴えあり。
- 起き上がり:自立。居間にて介護用ベッド使用
- 移動:いざり動作か歩行。

歩行は手引きにて自宅内は安定。

- 階段昇降:手すり把持にて見守りレベル。  
動作自体は安定性ありと判断。

# 経過

- 27年7月上旬 訪問看護師よりシャワー浴は動作的に大丈夫かとの相談あり。

➡ 床に座っての動作は安全性や腰部への負担の点でもリスクあり、シャワーチェア利用であれば可能と判断。



看護師により、自宅浴室でシャワーチェアを使ってのシャワー浴可能となる。

- 7月中旬 コルセットに関して苦しさを訴える事が頻回にあり、妻の精神的な不安が増加。



- 看護師がカセットテープにコルセットの注意点を吹き込んで適宜使用。
  - コルセットの締め具合を客観的にする為、周径を決める。
- 
- リハビリでは自宅で行える運動を録音し、1日1回行うようアドバイスを行った。

- 夜間ベッド柵を乗り越えようとしたり、寒くなり布団がベッド下に落ちてしまう等の問題が発生。



2階寝室で布団を敷いて就寝。ベッド返却。  
ポータブルトイレの使用も中止。

- カセットテープに吹き込んだ体操は随時追加。  
(15～20分程度)



カンファレンス当日は、自宅内に手すりをつけた様子を写真で供覧

## まとめ

- 生活する中で、家族負担の軽減に向けての対応を看護師と相談して工夫できた。
- 看護師も介入し相談できるという事は、リハビリとしても、家族も安心感があった。
- 本人家族の性格、考え方も踏まえ、限られた環境、時間の中で出来る範囲のサービスの提供が行えた。